

## DOHaD : OverviewとUpdate

メタデータ	言語: jpn 出版者: 日本DOHaD学会事務局 公開日: 2019-08-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉山, 隆 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10271/00003599">http://hdl.handle.net/10271/00003599</a>

## シンポジウム 2 「DOHaD の検証」

### DOHaD : Overview と Update

杉山 隆

愛媛大学医学部産科婦人科学

妊娠可能年齢女性のやせの増加は、低出生体重のリスク因子であり、次世代の健康に影響を与えることから重要である。一方、晩産化に伴い 30 歳以上の女性では、肥満とやせの頻度は同程度であり、標準体格の女性が減少している。2010 年以降に目を向けると、むしろ肥満女性の頻度が上昇傾向に転じている。子宮内環境によるエピジェネティクスを考えた場合、従来、子宮内低栄養に焦点が当てられていたが、近年諸先進国における肥満の激増により、母体の過栄養状態を介した子宮内の過栄養が次世代の生活習慣病発症に関与する可能性も指摘されている。事実、妊娠中のやせ女性における低栄養、肥満女性における過栄養は、それぞれ児発育に影響を与え、さらには両者ともに次世代の将来の肥満や 2 型糖尿病といった非感染性疾患 (non-communicable diseases; NCDs) の発症と関連することが報告されている。また母親のみならず父親の体格も次世代の健康に影響を与えることが最近の疫学研究により報告されている。

本講演では、DOHaD のオーバービューと母親や父親の次世代におよぼすエピジェネティクスに関する内外の疫学研究や基礎研究の一部を紹介したい。今後、動物実験等によるメカニズムのさらなる解明が、一旦異常スイッチが入ったエピジェネティック制御に変化を与え、NCDs 発症予防の糸口の発見につながるものと期待される。